

診療所だより

牛が教える性教育Part III

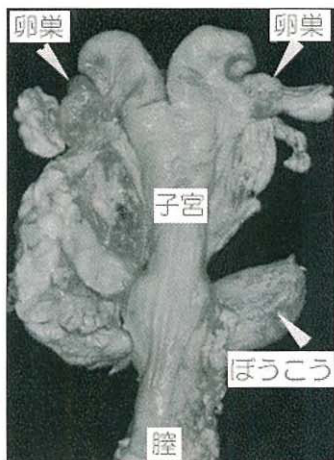
牛の生殖器の解剖

全ての動物は次の世代を残すため、違う言い方すれば、自分のDNA（遺伝子）を残すために繁殖行為を行います。それは基本的には牛も人間も、その他の動物も同じです。しかし、産業動物である牛のそれは、人間に管理され、計画的に行われています。いわゆる人工授精です。人の場合のように、ある程度、本能に任せてもらえるなら楽なのかもしれません。牛の場



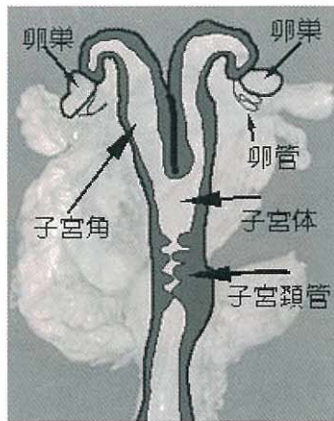
合は番主がしっかりと管理しないと中々難しいものです。何故なら、人間はオスメスの割合が半々ですが、牛は圧倒的にメスの方が多いですから。

今回は牛の生殖器の様子をお教えします。卵が出来る卵巣ってどんなものなのか、胎児が宿る子宮とはどんなものなのか、牛の繁殖を管理している番主が知っている事はとても重要なことだと思います。



▶生殖器の全体

ぼうこうは尿が貯まるところだから生殖器とは違いますね。



◆卵巣(らんそう)

いわゆる卵が出来るところ

◆卵管(らんかん)

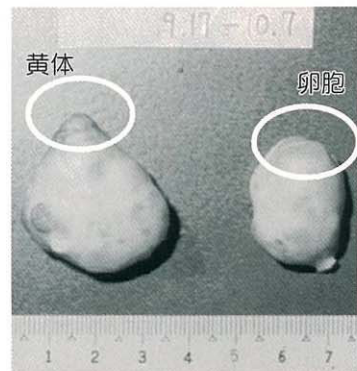
卵の通る管、精子と卵がここで出会って受精がおこります。

◆子宮角(しきゅうかく)

とも子宮、つまり胎児が宿る場所です。

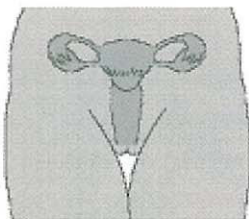
◆子宮体(しきゅうたい)

子宮頸管(しきゅうけいかん) 外陰部と子宮を繋ぐ通路である膣と子宮との境目、4つのヒダがあります。



▲卵巣の拡大図

右の卵巣には卵胞(卵が入った袋、丸い所)が、左の卵巣には黄体(尖った所)があります。



余談ですが、牛の子宮は双角子宮と言って、左右に分かれています。が、人間は単一になっています。次回は卵と黄体の話したいと思います。